世界自然遺産登録20周年記念シンポジウム結果

「知床の海から考える、私たちの未来とアクション」

環境の変化と地域の課題

・知床は、豊かな恵みをもたらす流氷により育まれています。
しかし、近年、気温や水温の上昇により流氷は接岸期間が短くなり、
厚みも減ってきています。

・サケやカラフトマス、コンブ、スルメイカなどが大幅に減少する一方、
ブリやフグが増え、魚や海藻の種類も変わってくるなど、
地球温暖化の影響で環境が確実に変化しています。

・流氷の減少は、知床の海洋生態系を支える食物連鎖の基盤を揺るがし、
「海と陸のつながり」という世界自然遺産としての普遍的な価値を
脅かしています。

・浜の仕事で厳しい暑さを感じるようになり、漁獲量も減少し、
「いつまで捕り続けられるか」という将来への危機感があります。
魚種の変化への対応が難しく、フグが捕れても地元で流通しきれず、
未利用魚も発生するなど、環境の変化による影響が生じています。

・また、ヒグマが人里近くまで下りてきて人とのあつれきが増加しており、
野生動物との共生に向けて一層の取組を進めながら、
知床が持つ普遍的な価値をどう後世に引き継いでいくか、
地域の人々の生活や産業をどう支え、持続させていくかが課題です。

未来へのアクション

この20周年を転換点とし、未来に向けて次のことに取り組みます。

・知床の普遍的な価値を学習する機会を確保するとともに、
遺産価値の保全と適正利用を推進する担い手の育成などを図ります。

・地域の特性を活かした漁業体験の場を提供するなどの取組により
人の往来を促進し、地域振興や雇用の確保などを図ります。

・捕れる魚が変化していく中、付加価値をつけながら地域の活性化に
繋げるなど地球温暖化への適応の取組を進めます。

・ヒグマとの遭遇リスクを低減するゴミ拾いや草刈りなどの活動を
若い世代にも理解してもらい、引き継いでいきます。

・地域の人々や来訪者の方々、行政、関係団体などが手を携えて協力していきます。

令和7年8月31日

知床世界自然遺産20周年記念シンポジウム